

## 教育班だより 7月号

気仙沼教育事務所 HP <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/mskyoz/>

夏休みまで残すところ2週間弱となりました。気仙沼教育事務所では、各校、園の御協力をいただきながら、夏休み前までに、17の学校、園に訪問させていただく予定となっております。各校で主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が進んでいることを感じます。

6月には、初任者研修（1年目）①、特別支援教育研修会、5年経験者研修と3つの研修を実施しました。先生方の御協力により、充実した研修となっております。今後ともよろしく願いいたします。

## 6/4 初任研（1年目）教育事務所研修①

今回は、入谷小学校の松岡清貴先生より「MAPを活用したレポートづくり」の講義・演習、津谷小学校の大場怜也先生、南三陸町立歌津中学校の須田山幸恵先生より「教師1年目を振り返っての体験発表」、指導主事より「子供理解と児童生徒支援」そして受講者同士のグループ協議という内容で実施しました。「MAP体験では、様々な実践を通して人と人との距離を縮めることができるということを学んだ。子供同士の仲を深めるために活用していきたい。」「『教師1年目を振り返って』では、意図的指名に向け、座席表を用いた机間指導をしていることを聞き、大変参考になった。」「教員として児童と関わる上での心構えや、指導する際に知識として蓄えておき、実践に生かすべき知見を得ることができた。」等の感想が挙げられました。初任1年目の先生方は、機関研修、勤務校研修、日々の授業実践、生徒指導…めまぐるしい毎日だと思います。心身の健康を第一に、一人で抱え込まずに先輩の先生方に頼り、校長先生、教頭先生の御指導をいただきながら、自分を少しずつ成長させていくことを願っています。



## お知らせ

## 【夏休み中の事務所主催の研修会等】

- ・ 7/25(木)、8/6(火) 中堅教諭等資質向上研修①・②(事前課題あり。クラスルームに提出。)
- ・ 7/30(火) 小・中学校教育課程地区研究協議会
- ・ 8/7(水) 初任者研修2年目②(事前課題あり。クラスルームに提出。)

※事務所で開催する研修会については、各自、名札を持参願います。

## 【参考となる資料】

- ・気仙沼教育事務所のホームページに各種参考となる資料を掲載しています。ご活用ください。

<https://www.pref.miyagi.jp/documents/17663/8siryou.pdf>



## 6 / 17 特別支援教育研修会



今回の研修では、新城小学校 白幡佐和子先生より、「特別な配慮や支援が必要な子供への支援体制について」と題して御講義をいただきました。障害者受容の難しさ、横や縦のつながり、周囲の支援等、様々な視点から御自身の経験に基づくお話をいただきました。受講者からは、「様々な視点から貴重なお話をいただき、保護者に寄り添った対応を心掛けたいと思った。」「障害者には周りの支援が必要であり、児童の悩みとともに保護者の悩みもしっかりと把握していきたい。」等の感想がありました。



その後の情報交換では、気仙沼市教育サポートセンターの遠藤弥生先生、宮城県発達障害者支援コーディネーターの佐藤牧子先生、気仙沼支援学校の小野寺由紀先生、阿部尚子先生に情報交換に入ってください、特別な配慮や支援が必要な子供への具体的な支援について話し合いを行いました。専門家のアドバイスをいただきながら充実した情報交換となりました。



## 6 / 26 5年経験者研修 教育事務所研修①

午前中は、指導主事より「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」「教科指導と生徒指導の一体化～発達支持的生徒指導で授業が変わる～」についての講義を行いました。また、気仙沼中学校の山田 正教頭先生より「児童生徒の自殺予防等に関する対応について」の講義をしていただきました。午後は、新城小学校の鈴木奈保美先生より「学級活動の実践について」の実践発表、生徒指導の諸課題についての研究協議を行いました。以下、先生方のアンケートにあるように充実した研修となった様子がかえりました。16名の受講者からのアンケートについて一部を紹介します。

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図るためには、学級経営や生徒指導がとても大切だと改めて実感した。」「生徒指導は、何かトラブルを起こした時にするものだけではなく、褒める・認めるといった未然防止も生徒指導だと学ぶことができた。」「子供たちが自殺を考へることがないようにすると同時に、そうなったときに自分から言える子を育てたい。」「関係機関とのつながり方や、家庭との関わり方など、今後の指導に生かしていきたい。」「児童が自発的にやりたいと思ったことを取り上げる重要性を感じた。」「限られた時間の中で、児童が主体となる学級活動をするために工夫していきたい。」「校種は異なっているけど同じような悩みや課題があることが分かった。様々な対応について、先生方と話し合うことができてよかった。」

